

(別紙 1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2775004100		
法人名	株式会社 プラティア		
事業所名	グループホームプラティア花園		
所在地	東大阪市稲葉2丁目1-13 (電話)0729-68-6655		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年 9月 18日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】 (19年7月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 6月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤 16人, 非常勤 人, 常勤換算 16人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3階建ての 2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (300,000円)	有りの場合償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,260円	

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	2	要介護2	7
要介護3	4	要介護4	3
要介護5	2	要支援2	
年齢	平均 86.55歳	最低 79歳	最高 100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三田クリニック・亀川医院・林歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景を残しながら交通の便もよく家族等が訪問しやすい立地条件に恵まれた3階建ての施設である。1階部分はデイサービスセンターになっており、行事等を行う広いスペースが確保されている。館内は階段・エレベーターを使って行き来することができ、外出したい時には玄関が開けられる自由な環境の中で、スケジュールに制限されることなく、各自のペースでのびのびと生活している。朝食・夕食は利用者と相談し希望を聞いて献立を決め、一緒に買い物に行き準備・調理・後片付けも共に行っている。毎日の買い物・近隣の散歩等の日常的な外出、また各自の習慣や趣味に合わせた個別の外出も積極的に支援し生活の活性化を図っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回改善課題であった水分量の記録については、医師の支持などにより必要な場合はチェック表に記録し、その他については職員が大まかに把握している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	計画作成者と現場のスタッフにサービス評価の意義や目的について話し、其々に記入してもらうことで日ごろの業務の振り返りができ、また管理者が確認することで事業所としてのサービスの質の確保にも繋げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	会議のメンバーに、自治会長や地域包括の職員が参加、又毎回多くの家族に参加してもらえるように働きかけ、行事の報告を行ったり、事業所のサービスの状況や取り組みなどを見てもらい、検討事項について率直な意見、要望などを聞くようにしている。ただ、2ヶ月に1回の開催は行えていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族などの訪問時には、積極的に働きかけ、利用者の状況報告や意見の収集を行うようにしている。また、訪問が困難な家族には、担当のスタッフが電話をかけ、毎日の暮らしがりや心身の状況などを伝えている。その際に家族から出された要望や意見などを「お便り報告書」のノートに書きとめ、職員間で共有している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	自治会の一部である長寿会に加入し、バザーや行事を中心に参加したり、施設から子供会に呼びかけお祭りを開催するなど積極的に交流を持つようになっている。また、担当者が地域の担当窓口を訪れ、地域の情報収集や事業所からの情報提供などを行い、連携を図っている。

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、「ご入居者が主人公」「尊厳を保つ」「いきいきとした生活」「痴呆の進行を防止」「地域社会と共に」を基本理念として取り組んでいる。利用者が家庭と同じ環境で生活できるように施設として取り組んでいるが、グループホームの基本方針である「家庭的な環境」については明文化はされていない。		基本理念の見直しの際、「家庭的な環境の下」等の文言を盛り込んでいくことが望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフが常に目にする場所に掲示され、また、毎月のフロアー会議の際に唱和するとともに、必ず理念の内容にも触れ、職員全員が確認し合える体制ができている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一部である長寿会に加入し、バザーや行事を中心に参加したり、施設から子供会に呼びかけお祭りを開催するなど積極的に交流を持つようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>計画作成者と現場のスタッフにサービス評価の意義や目的について話し、其々に記入してもらうことで日ごろの業務の振り返りができ、また管理者が確認することで事業所としてのサービスの質の確保にも繋げている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議のメンバーに、自治会長や地域包括の職員が参加、又毎回多くの家族に参加してもらえるように働きかけ、行事の報告を行ったり、事業所のサービスの状況や取り組みなどを見てもらい、検討事項について率直な意見、要望などを聞くようにしている。ただ、2ヶ月に1回の開催は行えていない。</p>		<p>地域に開かれたサービスとして質の確保を図るため、2ヶ月に1回の定期的な開催が望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>担当者が地域の担当窓口を訪れ、地域の情報収集や事業所からの情報提供などを行い、連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族などの訪問時には、積極的に働きかけ、利用者の状況報告や意見の収集を行うようにしている。また、訪問が困難な家族には、担当のスタッフが電話をかけ、毎日の暮らしぶりや心身の状況などを伝えている。その際に家族から出された要望や意見などを「お便り報告書」のノートに書きとめ、職員間で共有している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	率直な意見を聞く機会として月1回担当のスタッフが電話をかけ、家族と1対1の関係で意見を聴取し、サービスに反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を抑え、顔なじみの職員のサービスが継続できるための事業所の取り組みとして、各フロアに「自由帳」を置き、職員が日頃思っている事・要望・悩みなどを自由に書き込み、管理者に伝えて検討し、不満・ストレスが蓄積しないような配慮をしている。		
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後1年から3年の職員を対象として、1年に1回現任研修を実施している。また、年間のテーマ研修として、「センター方式」を今年度の研修課題として取り入れている。外部研修については、案内を各スタッフルームに掲示し、参加者が伝達研修として報告会を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域高齢者ケア会議に年2回参加、また2,3ヶ所ある地域の懇親会などにも年3,4回出席している。グループホーム間の見学や意見交換、研修など職員間の交流も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居までの間、併設事業所のデイサービスを無料で体験してもらい、施設・職員と馴染みの関係を構築すると共に、職員が利用希望者の状態・様子を見て入居後の支援につなげている。また、可能であれば体験入居などにも応じている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と一緒に調理・掃除・洗濯物たたみなどの家事を行い、利用者が率先してできることを、さりげなく支援している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を取り入れたアセスメントにより、より細かく利用者の思いや希望を把握できるように取り組んでいる。新しいアセスメントシートによる、再アセスメント途中である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族から聴取した意見、要望を基に職員ミーティングやフロア会議で話し合いチームとして介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の職員からの報告・ミーティングでの検討・家族からの希望・意見の聴取を基に、必要に応じて随時介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画の作成が図られている。変化や新たな要望が見られない場合の定期的な見直しが徹底されていない部分がある。		新たな要望や体調などの変化が見られない安定した利用者についても、月に1回程度、本人・家族の意向や職員の意見を確認し、見直しの機会を持つことが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療連携体制加算の指定を受け、緊急時対応が整備され、利用者と家族に大きな安心を与えている。また、入居以前からのかかりつけ医への継続的な通院にも同行している。さらに、以前住んでいた地域や利用していた店舗への訪問・墓参りなど利用者の希望に沿った個別の外出の支援も行っている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関・医師を把握し、利用者の希望に沿った受診ができるように支援している。ホームの協力医として内科・歯科の週に1回往診があり、健康管理を行っている。また、必要があれば以前からのかかりつけ医への通院の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>24時間医療連携体制加算の指定を受ける際作成した「看取りの指針」を医療対応の方針として職員間で共有し、また、利用者と家族には入居時に説明し了承を得ている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>「尊厳を保つ」という基本理念が職員間に浸透し、利用者に対してプライバシーと尊厳を確保する対応が見られる。職員全員に、入職時と折に触れ、個人情報保護についての理解を深め、誓約書を交わし秘密保持の徹底を図っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、起床・食事・入浴などの時間を強制することなく、利用者一人ひとりの体調・希望を尊重し、その日に適したペースで過ごせるように支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日の朝食・夕食、休日の昼食は、利用者と相談し希望を聞いて献立を決め、一緒に買い物に行き、準備・調理・後片付けも共に行っている。食事も、利用者と職員が同じテーブルで同じものを食べ、家庭的な雰囲気を楽しんでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は一応設定されているが、利用者の希望に沿った時間に入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメントや入居後の観察から、利用者一人ひとりの趣味や楽しみごとを把握し、継続できるように支援している。家事についても、男女共に一人ひとりが、自然な形で自分に応じた役割を果たし、職員と協働している。飲酒・喫煙も、節度を守りながら継続することができている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物・近隣の散歩など、日常的な外出を支援をしている。また、一人ひとりの習慣や趣味に合わせて、喫茶店・図書館などへの個別の外出も積極的に支援し、生活の活性化を図っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フロアのドアは施錠せず、エレベーター・階段を使用して各階に自由に行き来することができ、閉塞感は感じられない。家族の希望もあり玄関は施錠しているが、利用者の外出の意向を察知し同行できるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消火器の点検や避難経路・非難手順を記したマニュアル作成は行っているが、利用者参加の実践的な訓練は行っていない。</p>		<p>昼夜を想定した、利用者参加の実践的な避難訓練を、消防署・地域住民の協力の下、年に2回定期的に行うことが望ましい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居時のアセスメントで好みのもの・馴染みのものを把握すると共に、毎日利用者と相談し希望を取り入れて献立を決めている。利用者によって食べられないものがある場合は代替りのものを提供するなど個別の支援を行っている。食事量水分量については、医師の指示などにより必要な場合はチェック表で、その他については職員が大まかに把握している。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は採光に恵まれ、明るく清潔に保たれ、静かでゆったりとした生活環境が確保されている。ベランダには植物やベンチが置かれ、ガーデニングや外気浴を楽しむことができる。屋内は、季節が感じられる手作りの装飾品・利用者の作品・行事の写真などが飾られているが、過度にならず家庭的な雰囲気を損なっていない。トイレ・浴室・居室の表示もわかりやすく工夫されている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フローリング・畳・カーペットなどの選択ができ、自宅での馴染みの環境が継続できるように配慮されている。使い慣れた家具・仏壇・装飾品などが多く持ち込まれており、その人らしく快適に暮らせる居室の環境づくりへの支援がなされている。</p>		

 は、重点項目。